

第7回花畑周辺地域公共交通検討会（書面開催）

〔議事〕

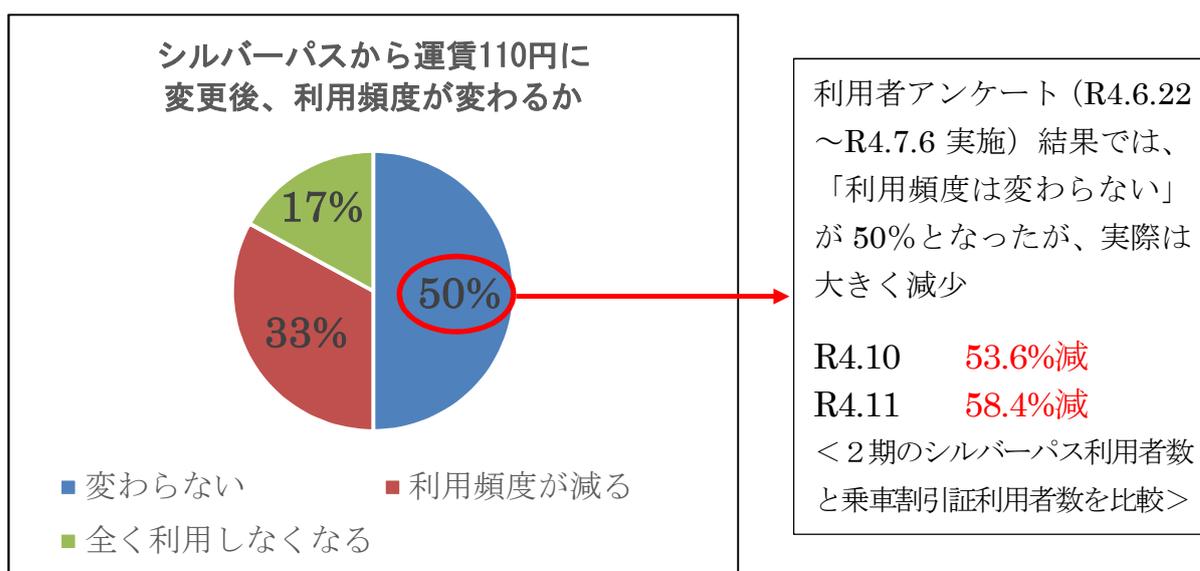
第7回花畑周辺地域公共交通検討会の議事内容を以下にまとめます。

1 これまでの利用実績について（別紙1参照）

1期・2期の収支率が11.1%と、本格運行への移行条件である24%を大きく下回ったことから、収支率の向上策として、令和4年10月1日付で「運行本数減」「シルバーパス利用不可」「乗車割引証導入」の3点を実施しました。

収支率向上策実施後の利用状況は以下のとおりです（令和4年11月末時点）。

- (1) 利用動向に合わせ効率的な運行本数とした結果、運賃払い利用者数はほぼ横ばい
→ 回数券利用者数は半減、回数券が手元になくなった方が運賃払い利用へ転換
- (2) 従来のシルバーパス利用層は、乗車割引証導入後5割以上減
→ **乗車割引証の利用者数は、事前のアンケート結果からの想定よりも少ない**



- (3) 乗車割引証の導入により運賃収入は増加

→ 運行本数減による運行経費の減少との相乗効果で、収支率は向上する見通し
1期・2期収支率 11.1% ⇒ 3期収支率 15.8%（推定）

2 検証運行期間の延長について（別紙2参照）

コロナ禍におけるブンブン号の利用動向を確認しながら、検証を進めてきました。

(1) 令和3年10月の運行開始前

デルタ株が流行しており、外出を促すような周知活動は控えざるを得ない状況
収束後に、広報紙での特集や回数券の販売等、周知や利用促進活動を実施
→ 認知が進み、目標は下回っているものの、バス利用者は徐々に増加

(2) オミクロン株の感染拡大時（令和4年1～4月頃、令和4年7～9月頃）

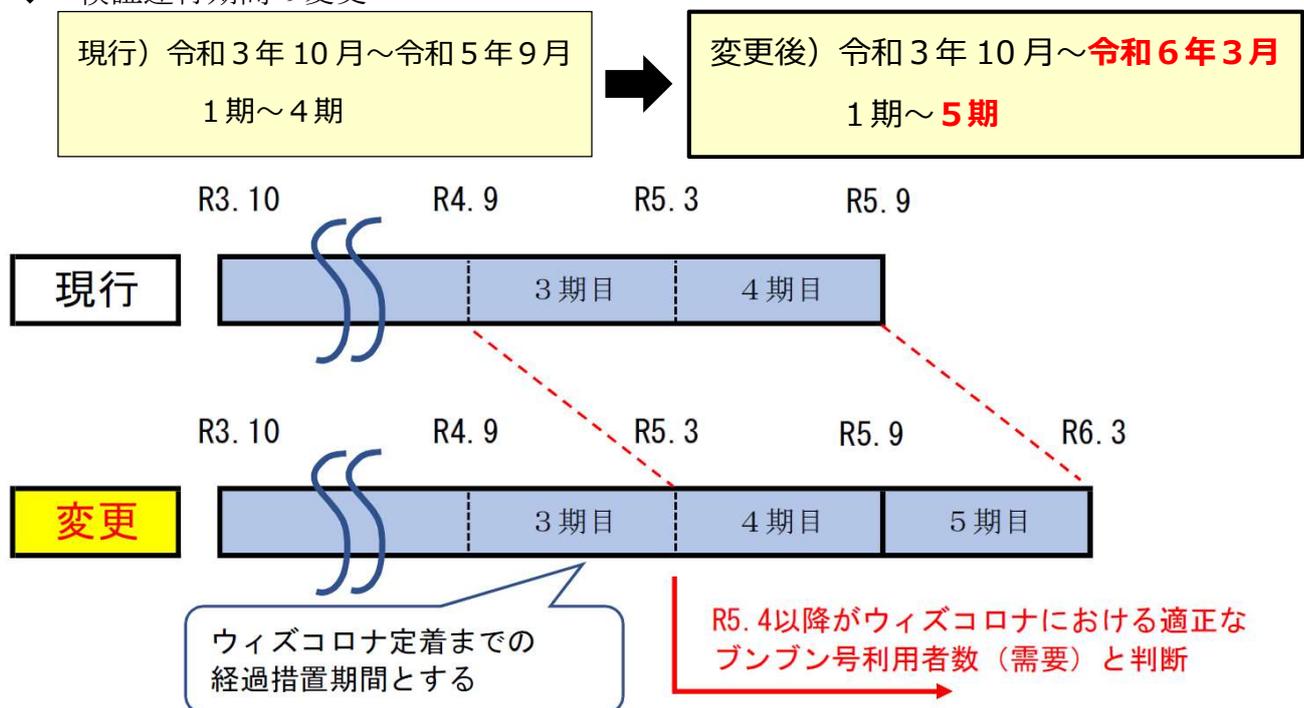
出控え等の影響でバス利用者は減少
第6波に比べ感染者数がより増えた第7波の方が、利用者の減少割合はより低下
→ ウィズコロナにおけるバス利用が定着傾向

(3) コミュニティバス「はるかぜ」の利用者数

コロナ禍で大幅に減少した利用者数の回復が鈍化傾向（参考資料参照）
→ あと半年程度ブンブン号の運行を延長することで、ウィズコロナにおける適正な利用者数を判断することが可能と想定

以上のことから、**検証運行期間を半年間延長**することといたします。

◆ 検証運行期間の変更



※ 本格運行への移行基準（2期連続で平均収支率24%達成）は変更しません。

※ 令和5年4月以降、改めて乗降調査を実施し、利用状況を再検証いたします。

3 回数券の販売及び乗車割引証の臨時発行について

(1) 回数券の販売

- ・ 使用実績

令和4年4月に販売した回数券の使用率は、78.7%（令和4年11月末時点）

→ **利用促進も兼ねて再度販売**

- ・ 料金設定の変更

前回 7枚つづりで1,000円（1,540円相当、割引率35%）

→ 一般的な5枚つづり1,000円の回数券よりも相当に廉価であるため、
今回も同等とした場合は収入面への悪影響が懸念

今回 6枚つづりで1,000円（1,320円相当、割引率24%）

令和4年4月に販売した回数券も、今回分に合わせ令和5年12月31日
まで有効期限を延長（区HPやSNS、車内のデジタルサイネージ等を活用し、回数券販売と併せて広く周知）

■ 概要	
料金設定	1,000円（6枚つづり、1,320円相当）
有効期限	令和5年12月31日
■ 販売	
時期	令和5年3月下旬を予定
場所	つくばエクスプレス六町駅出口A1 花畑地域学習センターエントランスホール (いずれも想定)
数量	500部程度

前回販売した回数券



(2) 乗車割引証の臨時発行

- ・ 発行実績

臨時会場及び区役所で発行した乗車割引証は、636枚（令和4年11月末時点）

- ・ 今回の対応

検証運行の延長に伴い、**令和6年3月31日時点で70歳となる方や、すでに対象ではあるが未交付の方に対し、上記の回数券販売時に臨時発行を実施**



議事は以上となります。